

土浦平和の会

ニュースNo. 265 2014年3月

発行 土浦平和の会

事務局 土浦市神立町2664-2

TEL、FAX 831-9122

<http://heiwatutiura.web.fc2.com/>

さよなら原発連絡会学習交流集会（さよなら原発連絡会主催）

2月22日（土）コープ土浦店

DVD 観賞～未来への決断、ノーモア原発～、

福島事故をふり返って～長坂慎一郎さんの報告

憲法九条の会、年金者組合、新婦人、保健生協、革新懇等から35人の参加があり盛会でした。

3月9日（日） No Nukes day 原発ゼロ大統一行動

土浦から各団体14名のほか個人参加も多数ありました。

3・11事故から3年目。「東海第二原発は廃炉に」ののぼりを持って参加し、日比谷野外音楽堂集会、国会前大集会で、「再稼働反対」の思いを大声で叫びました。

東海第二原発の「安全」⇒「再稼働」を許さない声を高めましょう。

秘密保護法廃案を求める署名

春の突風が吹き荒れる中 3月6日秘密保護法の廃止を求める署名活動を土浦駅前で行いました・まだまだ宣伝が必要だと感じました

秘密保護法廃止、消費税増税中止の署名活動をひきつづき展開しています。

土浦平和の会の総会の予定 6月1日（日）午後

結成20年になります 詳細は追ってお知らせします

シリーズ 私の体験 (11)

北満（中国）での戦争体験 (3)

阿見町 長南（旧姓 池田）美佐子

（前号まで：劣悪な収容所で母は栄養失調になり、一歳の妹を中国人に預けた。1946年10月帰国）

今度は日本の汽車に乗った。この汽車には屋根がある。座席もある。寒い風が入ってこない。外の景色を眺めているとどこか違う。家々の色が違う。見慣れたレンガ色の建物や煙突が一本もない。美しかったのは柿の実だった。だいたい色に染まった沢山の実をつけた木がどこの家にもあった。これが日本の風景だった。今でも柿の季節になると思い出す。

汽車の旅も常磐線土浦駅で終わった。祖父が迎えに来ていた。車で父の実家、東真鍋に帰ってきた。祖母は涙を流し、母をやさしくねぎらった。お風呂に入り、真っ白いご飯をたくさん食べた。母が「よかったね」と何度も言った。母のこんな優しい言葉にみんな安心した。隣近所の人や親せきの人たちが訪ねてきて帰国を喜んでくれた。すぐに着られる服や靴、下駄などをいただき助かった。安心して住める家があり、白いご飯が食べられる。母は少しずつ元気を取り戻したが、毎年秋になると高熱を出して寝込んでいた。祖母は栄養のある食事を用意して「何も心配しないで養生しろよ」と優しく接してくれた。11月、祖父が転入手続きをして真鍋小学校に入学した。私はもう一度、一年生、姉はもう一度、三年生、戦争浪人小学生の現実だ。学校では友達も沢山できて楽しかった。いじめ等はなかった。

昭和23年<1948年>11月3日、ソ連に抑留されていた父が帰ってきた。少しも変わらず元気そうに見えた。祖母は一人息子の姿にすがり、大きな声で泣いた。みんな泣いて喜んだ。翌年10月妹が誕生した。祖父は真鍋の家で生まれた孫を特にかわいがった。祖母は一人息子が帰国し安心したのだろうか、25年<1950年>63歳で亡くなった。家族が元気に暮らし、平和な時が過ぎた。それぞれが家庭を持ち内孫、外孫にも恵まれた父は祖母と同じ63歳（昭和45年<1970年>）で亡くなった。（祖父はその前年に死亡）中国人に預けてきた妹のことは一切口にしなかったそうだ。母を責めることはなかったと聞いた。その後の母は体調を崩し、ぜんそくとの戦いで入退院を繰り返す日々を送っていた。

昭和47年<1972年>、日中国交が回復した。私は娘を背負ってテレビニュースを見ていた。涙がこぼれて胸が熱くなった。三歳の息子が「ママ、なんで泣いているの」と心配そうに体を寄せてくる。「うれしい時も泣くんだよ」と。あの時の田中角栄さんがまぶしかった。全身からこみあげてくる感動、感激の感情が膨らみ傍らにいた息子を強く抱きしめた。「中国に行ける」「妹を迎えに行ける」頭の中はそのことでいっぱいになっていた。

（次号に続く）

この「シリーズ私の体験」欄に、読者の方の体験談をぜひ投稿してください。

活動ごよみ

3/14 平和の会理事会

3/16 諸要求実現茨城県集会（旧県庁広場）

5/3 憲法フェスティバル（水戸千波）

6/1 土浦平和の会総会